

ま と め

本調査から、三重県内の高校生、大学生におけるデートDVの実態やその特徴について、以下のとおりまとめた。

1. 被害経験

デートDVの被害経験は、全体では、交際経験のある3,389人のうち865人(25.5%)という実態があり、そのうち女性は637人(31.0%)、男性は228人(17.1%)である。これは、交際経験のある高校生・大学生の約4人に1人、女性の約3人に1人、男性の約6人に1人が被害経験があることを示す。

被害経験の上位は、「自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(全体52.9%、女性53.5%、男性51.3%)、「相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」(全体45.1%、女性44.6%、男性46.5%)、「殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(全体34.3%、女性37.8%、男性24.6%)であった。

全体的な特徴として、「つきあっている相手は自分に合わせるもの」という意識がうかがえ、相手を尊重しない人間関係が見てとれる。また、「相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」「携帯メールで常に行動を報告したり、返信するよう要求する」といった、携帯電話を使って相手の行動を制限する社会的暴力の割合が高いことは、デートDVの実態の特徴として注目すべき点であり、表面化しづらい暴力への対応策が必要と言える。

○ 被害者は女性の方が多く、深刻な被害につながりやすい

デートDV被害は男性にも女性にもあるが、ほとんどの項目において女性の被害経験の方が多い。特に、「思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする」「不愉快な性的言動をする」「ケガになるほど、殴ったりけったりする」は女性の被害経験の割合が男性の約2倍と高く、身体的暴力、性的暴力等による深刻な被害が考えられる。

また、被害を受けたときの気持ちにおいても、「怖かった」という項目で男女差が大きく、女性は男性に比べて約3倍もの方が恐怖を感じている。身体的暴力や言葉でおどすような暴力は、男性から女性への行為と、女性から男性への行為では、相手に与えるダメージの大きさに差があることは容易に想像できる。また、対等な関係ではなく、相手を支配する関係につながる危険性があることが考えられる。

「不愉快な性的言動をする」の項目では、女性の被害の方が2倍も多く、「性」に関して男女間で意識の差がみられる。また、自由記述の中には、「避妊に協力しない」といった性的暴力の被害がみられ、女性の心と身体への重大な被害につながる懸念があり、深刻に受け止め、取り組む必要がある。

「性」に対する正しい認識を深めるとともに、「性と生殖に関わる健康・権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)」は女性の人権の1つとして尊重されなければならない。

また、自分のからだや性に関することは自分自身が決定でき(性的自己決定権)、互いに尊重し合うべきものである。男女がともに「性」に対する正しい認識を深められるような教育の推進が必要である。

2. 加害経験

三重県の高中生・大学生におけるデートDVの加害経験は、交際経験のある3,389人のうち、全体と

して652人(19.2%)。これは高校生・大学生の約5人に1人がデートDV加害経験があることがわかる。

男女別にみると、交際経験のある女性2,052人のうち400人(19.5%)が「加害経験あり」と回答しており、女性の5.1人に1人が加害経験があることがわかる。

また、男性では、交際経験のある男性1,336人のうち252人(18.9%)という結果となり5.3人に1人が加害経験があるという結果となった。

加害経験の上位は、「殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする」(36.3%)、「相手を傷つける呼び方をする」(35.3%)、「自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」(34.7%)となっている。

被害経験同様、デートDV加害経験は男女ともにあるが、重大な被害につながる「思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする」「ケガになるほど、殴ったりけったりする」「不愉快な性的言動をする」といった加害経験は男性の方が多く、深刻に受け止める必要がある。

3. 加害の理由

加害の理由をみると、全体では、「やられたのでやり返した」(24.5%)、「いらいらしていたから」(22.0%)、「自分でも理由がわからない」(19.8%)と回答した人の割合が高い。

女性では「やられたのでやり返した」(27.4%)が最も高く、相手から何らかの被害を受け、それに対して加害行為を行った、という様子が推測される。男性では「自分でも理由がわからない」(23.1%)という回答が最も高く、自覚のないまま加害を行っている様子がうかがえる。

自覚なく加害行為を行うということは、男性は暴力をふるう自分の気持ちに気づいていない、または自分の感情や気持ちを上手く表現できていない、と考えられる。

加害は男女ともにあるが、加害を行う理由に男女の差が大きい点は注目すべきである。

4. 初めて被害・加害を経験した時期

初めて被害・加害を経験した時期は、どちらも高校1年生、高校2年生に続き、中学3年生、中学2年生の順に多い。高校生が最も多く、全体の3割が中学生で経験していることから、早い年齢でのデートDV未然防止の取組や教育が必要だと言える。

5. 被害を受けた後の相手との関係

被害を受けた後の相手との関係では、全体では「別れた」人は41.7%、関係を続けた人は48.4%となり、「一度は別れたが、再び付き合うようになった」を含めると58.2%であった。

別れなかった理由で最も多かったのは、「好きだから」と6割以上の方が回答している。次に「大したことではないと思うから」「嫌なところもあるけど、いいところもあるから」の回答が多い。

特に女性は「嫌なところもあるけど、いいところもあるから」の回答が男性よりも約17ポイント高く、暴力を受けても相手を肯定的に受け止めようとする傾向が強いことがうかがえる。

男女ともに、親密な関係になると「男性は女性を守りリードするもの」「女性は男性に守られたい」という「男らしさ」「女らしさ」の固定観念に基づいた意識(ジェンダー・バイアス)が強くなる傾向がある。相手の気持ちを尊重することや、「男らしさ」「女らしさ」といった固定観念にとらわれないための教育が必要である。

6. 相談の有無と相談先

被害経験後の相談の有無では、全体の半数以上の52.5%が相談している。男女別では、女性は

55.6%、男性は43.5%の人が相談している。しかし、男性の55.5%の人は「相談したいと思わなかった」と回答しており、女性よりも男性は相談につながりにくい状況がみられる。その背景には、「男性は弱音をはかないもの」「悩みがあっても気軽に誰かに相談しない」という「男らしさ」の固定観念に基づく意識が影響しているのではないかと懸念される。

相談先で最も多いのは「友人」(86.6%)である。交際経験のない人は、当事者ではないから関係ないと思う傾向があるが、自分が相談される立場になる可能性も高いことから、デートDVは一部の人の問題ではなく、全ての若い世代の問題として正しく理解することが必要である。

また、その他の相談先として、学校での割合(先生(5.7%)、スクールカウンセラー(1.7%)、養護教諭(0.2%))やその他機関の割合は低く、周りの大人が相談を受け止められるよう、高校生、大学生に関わる大人に対する啓発が必要である。

7. 友人の加害・被害を見聞きした経験

加害・被害を見聞きした経験がある人は、全体の20.9%であった。傾向として「自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる」が最も多く、次に「相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする」が多い結果となった。

8. 相談の実態

見聞きした後の対応では、全体では「相談にのった」(44.8%)が最も高い。

男女別にみると女性の54.4%の人が「相談にのった」と最も多い。また男性は「何かしようと思わなかった」と回答した人が44.2%と最も多く、男女の差がそれぞれ2倍以上あった。

この結果は、相談の有無での男女の差と同様に、「男性は弱音をはかないもの」といった「男らしさ」に基づく固定観念から、相談につながりにくいと同時に、「他者の相談にのる」ということも少ない状況がうかがえる。

9. 固定的性別役割分担意識との関連性

「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識については、全体では「同感する」「どちらかといえば同感する」を合わせて(全体21.5%、女性16.9%、男性27.5%)、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を合わせると(全体57.4%、女性66.6%、男性46.0%)という結果となり、女性に比べ男性は性別役割分担意識にとらわれていると言える。

また、性別役割分担意識と暴力の感度・許容度を関連して見てみると、性別役割分担意識にとらわれていない人ほど、暴力の感度が高く、暴力の許容度が低くなる傾向がある。

性別役割分担意識と加害経験を関連してみると、「加害経験なし」の人の中では性別役割分担意識にとらわれていない人が多く、「加害経験あり」の人の中では、性別役割分担意識にとらわれている人が多いことがわかった。

10. デートDVの認知度、相談機関の認知度

デートDVに関する認知度は、「言葉も内容も知っている」人が、全体では36.5%であるものの、男女別にみると女性43.4%、男性28.0%と男女の認知度の差が大きい。

また、相談機関の認知度では、「知っている」と答えた人は全体の1割にも満たないことから、認知度の低さが明らかになった。

全体を通して

デートDV加害・被害経験をみると、三重県内の高校生・大学生で交際経験がある人の4人に1人がデートDV被害を経験している。女性では3人に1人被害経験がある。(女子高校生では3.3人に1人、女子大学生では2.7人に1人の割合)。男性では6人に1人被害経験がある。

女性の方が男性に比べて約2倍の比率で被害にあっていない状況は注目すべきである。女性の3人に1人の被害経験があるということから、デートDVは一部で起きている問題ではなく、すべての若い世代に関係する問題であるということが言える。

また、デートDVの加害・被害は男性にも女性にもあるが、ほとんどの項目において女性の被害経験の方が多く、また男性から女性への加害行為の方が、女性から男性への行為に比べ、相手に与えるダメージや心の傷は大きいと考えられる。

男女ともに加害行為をしているからと、加被害を相対的にみるのではなく被害を深刻に受け止め、今後の防止策に取り組む必要がある。

○ デートDVについての正しい知識を学習する必要性

身体的暴力だけでなく、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力、社会的暴力など、暴力を暴力と認識する教育が必要であり、正しく認識することが予防につながる。

あわせて、デートDVに関する友人からの相談に、適切に対応できるためのスキルを学ぶ学習が不可欠である。このことが、デートDVの被害の拡大を最小限に食い止める上で(二次被害につながらないために)重要である。

○ 固定的性別役割分担意識の解消

調査で明らかになったように、性別役割分担意識にとらわれないことで、加害行為を減らすことにつながると考えられる。若い世代は、男女平等意識が身についていると思われているが、実は、「男らしさ」「女らしさ」の固定観念に基づいた意識(ジェンダー・バイアス)が根強いことが今回の調査でも見てとれ、このことが「対等な関係づくり」の阻害要因になっていると指摘できる。

特に男女が親密な関係になると「男性は強く、女性を守るもの」「女性は可愛らしく、男性に守られたい」といった考えの行動につながりやすく、対等な関係が崩れていく傾向がある。これは、社会におけるメディアや親世代などの影響が大きいと考えられる。

また、男性が相談につながりにくいという結果からも、男性は「男らしさ」のとらわれの中で、弱音や悩みを誰かに相談できず一人で抱え込んでしまう状況が考えられる。これは、デートDVだけでなく、現代社会で、上下関係や競争社会で生き抜く男性が抱える課題にも通じると言える。

性別にとらわれない意識づくりは、早い段階からの教育が必要であり、モデルとなる大人の意識啓発も同時に必要である。

○ 対等な関係づくり、コミュニケーション

デートDV防止には、正しい知識を身に付けるとともに、自分も相手も尊重し対等な関係を築くためのスキルを身に付けることも重要である。幼少期からゲームやメールに慣れ、直接相手と

言葉でコミュニケーションをとる機会が少ない今の若い世代には、よりコミュニケーション能力や人間関係を調整する力を養う必要があると言える。

まず自分の気持ちに気づき、尊重した上で相手も尊重するコミュニケーションスキルを身に付けることが、早い段階から、また性別によらず男女ともに取り組むことが重要である。

それは、男女間の交際だけでなく、友人、家庭、学校、職場など、社会におけるすべての人間関係に通じる重要な要素である。

デートDVは、当事者間だけの問題ではなく、社会全体の問題であると捉え、デートDVを起さない社会づくりを進める必要がある。

そのためには、若い世代が性別にとらわれない生き方や価値観を身に付けるだけでなく、そのモデルとなる大人や学校、家庭、地域、職場など社会のあらゆる場で取組が求められる。

その基盤には、男女共同参画社会の実現が不可欠である。すべての人の人権が尊重され、性別にかかわらず、個人として能力と個性が十分に発揮でき、多様な生き方が認められる社会、男女が対等な立場で社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う男女共同参画社会の実現が急務である。

デートDV防止のための取組と共に男女共同参画社会の実現に向けた取組が、行政、教育を中心に様々な機関一体となって実行されることを期待する。

「デートDV」に関する実態アンケート(数値結果)

近年、高校生・大学生等の若い世代においても、「デートDV(※)」による被害が起きています。そのような被害防止に向け、現状を把握するアンケートのご協力をお願いします。答えられる範囲で、質問に対するあなたの考え方や日ごろの行動についてお答えください。また、このアンケートはプライバシーに十分に配慮して実施します。気軽に、安心してお答えください。※「デートDV」とは、恋人など交際相手からの暴力のこと。

【回答方法】 下記の各設問項目に対して、該当するものを選んでマークしてください。

1. マークは必ず黒鉛筆で正確に塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は消しゴムできれいに消してください。

【記入例】

良い例 : O 悪い例 : O O O

設問1 あなたの性別

- ① 女性(55.8%、3,820人) ② 男性(43.7%、2,992人) ③ 無回答・不明(0.4%、29人)

設問2 あなたの学年

- ① 高校1年生(30.6%、2,092人) ② 高校2年生(30.4%、2,077人) ③ 高校3年生(28.4%、1,941人)
 ④ 大学1年生(4.8%、329人) ⑤ 大学2年生(2.3%、160人) ⑥ 大学3年生(1.5%、106人)
 ⑦ 大学4年生(1.6%、107人) ⑧ 無回答(0.4%、29人)

設問3 次の事柄について知っていますか。

- ① DV(配偶者(夫や妻等)からの暴力) (80.7%、5,520人) ② デートDV [若年層において恋人や交際相手からの暴力] (45.8%、3,132人)
 ③ DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)(16.1%、1,104人)
 ④ 無回答(18.7%、1,279人)

設問4 「デートDV」について、どの程度知っていますか。

- ① 言葉も内容も知っている(36.5%、2,497人) ② 言葉は知っているが内容は知らない(25.2%、1,721人)
 ③ 言葉も内容も知らない(36.6%、2,503人) ④ 無回答・不明(1.8%、120人)

設問5 「デートDV」について、見たり聞いたりしたことがありますか。(複数回答可)

- ① テレビや新聞で見聞きしたことがある(27.6%、1,889人) ② 友人や家族から話を聞いたことがある(8.0%、544人)
 ③ デートDVに関する授業を受けたことがある。(20.4%、1,393人) ④ 見聞きしたことはない(48.9%、3,347人)
 ⑤ その他(1.7%、119人) ⑥ 無回答(2.1%、147人)

設問6 次のそれぞれの行動について、あなたの感じ方に合うものに一つずつマークしてください。

		暴力と感じる	やや暴力と感じる	あまり暴力とは感じない	暴力とは感じない	無回答不明
1	殴ったり、けったりすること	86.9% 5,942人	10.0% 687人	1.5% 104人	0.7% 49人	0.9% 59人
2	大声でどなること	20.0% 1,365人	49.5% 3,386人	22.3% 1,526人	7.4% 506人	0.8% 58人
3	バカにした呼び方をすること	13.4% 914人	39.6% 2,710人	35.2% 2,410人	10.8% 742人	1.0% 65人
4	何を言っても無視すること	22.3% 1,526人	36.4% 2,493人	27.0% 1,847人	13.2% 901人	1.1% 74人
5	人と会うことや外出などの行動を制限すること	30.3% 2,072人	34.0% 2,324人	22.2% 1,517人	12.5% 856人	1.1% 72人
6	借りたお金を返さないこと	25.9% 1,771人	29.3% 2,007人	26.0% 1,781人	17.6% 1,203人	1.2% 79人
7	言うとおりにしないとただではすまないとおどすこと	63.8% 4,365人	25.9% 1,775人	5.7% 388人	3.5% 240人	1.1% 73人
8	メールや着信をチェックすること	19.2% 1,314人	34.0% 2,328人	29.1% 1,993人	16.6% 1,133人	1.1% 73人
9	不愉快な性的言動をすること	44.8% 3,063人	33.6% 2,296人	14.0% 958人	6.7% 456人	1.0% 68人

設問7 暴力について、あなたの考えに合うものにマークしてください。(複数回答可)

- ①殴ったりけったりすることは、何があっても許されない(73.2%、5,007人)
- ②軽く叩く程度なら、特に問題ない (44.6%、3,054人)
- ③おだやかに説明してもわからなければ、どなってもかまわない (13.0%、888人)
- ④愛情があれば、暴力をふるってもかまわない (9.2%、631人)
- ⑤暴力をふるわれるのは、ふるわれる方にも原因があるからだ (14.7%、1,007人)
- ⑥暴力をふるっても、謝れば許すべきだ (8.3%、570人)
- ⑦無回答(3.4%、232人)

設問8 あなたは特定の人と付き合った経験がありますか。

- ①ある(49.5%、3,389人) → 設問 9へ
- ②ない(48.1%、3,293人) → 設問 12へ
- ③無回答・不明(2.3%、159人)

設問9 あなたの恋人などの交際相手との関わりの中で、次の1～11のような行動をしたり、されたりしたことがありますか。当てはまるものにマークしてください。

		したことがある	されたことがある
1	相手を傷付ける呼び方をする	3.4% 230人	3.0% 203人
2	自分の予定を優先させないと無視したり不機嫌になる	3.3% 225人	6.7% 457人
3	相手の携帯電話の着信履歴やメールをチェックする	3.1% 212人	5.5% 373人
4	勝手に相手の携帯電話の番号やアドレスを消す	1.0% 65人	2.1% 142人
5	携帯メールで常に行動を報告したり、返信したりするよう要求する	1.4% 96人	4.2% 284人
6	相手の意見を聞かずに、自分勝手に物事を決める	2.0% 134人	3.4% 233人
7	思い通りにならないと、どなったり責めたりおどしたりする	0.9% 62人	2.6% 180人
8	殴るふりをしたり、軽く叩いたりけったりする	3.4% 235人	4.3% 297人
9	ケガになるほど、殴ったりけったりする	0.5% 33人	1.3% 92人
10	不愉快な性的言動をする	0.7% 45人	2.3% 156人
11	したりされたりしたことはない	31.1% 2,193人	→設問12へ
無回答		58.8% 4,021人	87.4% 5,981人

設問10 設問9で「したことがある」に一つでも該当する人にお聞きします。

- (1)そのようなことをした理由として、あてはまるものにマークしてください。(複数回答可)
- ①自分の言うことを聞かなかったから(0.6%、39人)
 - ②やられたので、やり返した(2.1%、147人)
 - ③責められたりバカにされたから(0.8%、53人)
 - ④いらいらしていたから(1.9%、132人)
 - ⑤好きだから当然と思った(1.5%、103人)
 - ⑥相手が去っていくのではと不安になったから(1.4%、95人)
 - ⑦自分でも理由がわからない(1.7%、113人)
 - ⑧その他(1.9%、129人)
 - 無回答(91.2%、6,241人)

(2)「したことがある」経験の中で、初めてしたのはいつ頃でしたか。

- ①小学4年生以前(0.5%、31人)
- ②小学5年生(0.2%、11人)
- ③小学6年生(0.2%、11人)
- ④中学1年生(0.5%、37人)
- ⑤中学2年生(1.0%、69人)
- ⑥中学3年生(1.2%、83人)
- ⑦高校1年生(1.9%、129人)
- ⑧高校2年生(1.6%、112人)
- ⑨高校3年生(0.8%、56人)
- ⑩大学1年生(0.4%、26人)
- ⑪大学2年生(0.2%、15人)
- ⑫大学3年生(0.1%、9人)
- ⑬大学4年生(0.1%、8人)
- 無回答・不明(91.3%、6,244人)

おわりに

DV防止法の施行後、2003年に山口のり子氏によって名づけられた「デートDV」は、この10年で「若年層における交際相手からの暴力」として社会の中で広く認識されるようになりました。「デートDVに関する調査」も、各地の自治体ごとにと組が広がってきています。内閣府の調査や教材制作、研修機会の提供など、国が取り組むべき姿勢を打ち出してきた成果といえます。

このたび、三重県において全県立高校（全日制）の協力のもとで本調査が実施されたことは、他の自治体と比べても高く評価されるものといえます。県内の高校生・一部大学生における暴力やデートDVに対する意識と実態の把握、調査結果から見える現状と課題などは、貴重な資料となるものです。ただ、性暴力に関してはあいまいな表現となったこと、ふみこんだ質問を避けたことで、実情に迫れなかった点は残念だといえます。

「デートDV」は日本だけの問題ではありません。世界中で、暴力で相手を支配しコントロールするDVやデートDVの深刻な被害が、今も絶えないのが実情です。そのためのさまざまな予防教育や啓発の取組がされてきています。

教育現場は、デートDVを単なる恋愛のいざこざや問題行動ととらえて生徒指導や処罰で片付けても解決しません。

暴力の被害を受けないことは私たちの権利です。自分の心とからだを守る権利意識、自己尊重感の育成、自己決定権の大切さを教える教育機会を増やし、加害者にも被害者にもならない人を育てることが重要です。健康で安全・対等な人間関係を育てる教育と暴力予防教育が両輪で必要だといえるでしょう。

この報告書による分析・検討が、今後の若年層における暴力の根絶とデートDV対策に具体的に活かされることを願うものです。

具　　ゆ　　り

「デートDV」に関するアンケート調査
報 告 書

2013（平成25）年3月

発 行 公益財団法人 三重県文化振興事業団
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234
電話 059-233-1130 FAX 059-233-1135
E-mail: frente@center-mie.or.jp
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

印刷 伊藤印刷株式会社



もし、あなたやあなたのまわりの人が、 交際相手とのカンケイに悩んでいたら。

もし、あなたが交際相手から大切にされていないと感じるのなら、
まずはだれかに相談してみましょう。親、先生、友だち…あなたの
相談しやすい人に話してみましょう。

- ◎ 緊急のときは
- ◎ 身の危険を感じたら

迷わず 110 番

ひとりで悩まず相談してください。

相談内容の秘密は固く守られます。

D V に関する相談機関 (三重県内)

三重県配偶者暴力相談支援センター
(三重県女性相談所)

059-231-5600

月・水・金 9:00～17:00
火・木 9:00～20:00

三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」

女性のための電話相談

059-233-1133

火～日 9:00～12:00
火・金・土・日 13:00～15:30
木 17:00～19:00

三重県警察本部 警察総合相談電話

059-224-9110

月～金 9:00～17:00

男性のための電話相談

059-233-1134

第1木曜日 17:00～19:00

優先予約

059-233-1131 (予約ダイヤル)

予約時間 開館日の9:00～19:00
(第1木曜は9:00～16:30)

少年サポートセンター

月～金 9:00～17:00
土・日・祝日・年末年始を除く

◎ 少年相談 110 番

0120-41-7867

◎ 北勢少年サポートセンター

059-354-7867

◎ 中勢少年サポートセンター

059-227-7867

◎ 南勢少年サポートセンター

0596-24-7867

◎ 伊賀少年サポートセンター

0595-64-7837